

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700270		
法人名	医療法人中西内科クリニック		
事業所名	グループホーム山川		
所在地	遠島県吉野川市山川町川東80番地		
自己評価作成日	平成24年6月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、高越山のみもとに位置し、一歩外に出ると四季折々の風景を目にすることができる。自然豊かで平坦な立地を生かし、周辺を散歩したり、地域の行事や催しに参加したりして、地域に密着した事業所を目指している。併設の医療機関と連携して利用者一人ひとりの状態に応じた健康管理を行っている。医療機関と24時間の連絡体制を構築しているため、利用者や家族の安心に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな場所に位置しており、利用者はゆったりとした環境のなかで穏やかに過ごしている。職員は、“利用者といっしょに暮らす”という思いで、一人ひとりへの理解を深めている。アニマルセラピーや地域の文化祭へ作品を出展するなどして、生活のなかで利用者の楽しみを見つける工夫をしている。職員は、利用者一人ひとりの“できる”ことを見つけ、利用者の意欲的な生活を支援しつつもに暮らしている。月1回、管理者と全職員で日ごろのケアの振り返りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念の意味を理解し、つねに意識してサービスの提供ができるよう目につく場所に理念を提示するなどして、職員の意識向上と理念の共有化を図っている。	理念を事業所内の目につきやすいところに掲示している。毎日の申し送り時に理念を確認している。理念にそった支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩の支援時などに近隣住民とあいさつを交わすことによって交流を図っている。また、運営推進会議や行事などへ、なるべく家族や地域の方の参加を得られるよう声かけを行っている。	日ごろから、利用者は近隣を散歩したり、商店へ買い物に出かけたりして、住民と挨拶や会話を交わし交流を行っている。地域の文化祭に作品を出展している。地元の保育所の子どもたちの来訪もあり、積極的に地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することにより、認知症の理解を少しずつ進められていると思われるが、明らかな活動はできていない。なお、事業所内に相談窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域民生委員の方の参加を得ている。地域の情報交換や苦情、要望、相談等、生の声を聞くことのできる機会を設けている。前回提案されたことは必ず検討しサービスに活かすことができるよう努めている。	運営推進会議の際、参加者から情報や助言を得て、地域との交流に活かしている。また、利用者や家族の参加を得ており、出された意見や要望を運営面に反映させている。全職員で議事録を回覧し内容を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などの連絡など、定期的に情報交換を行っている。また、困ったときのほかにも、つねに連絡相談を行うなどして協力関係を構築している。	日ごろから、市担当者とは情報交換を行い、助言や情報を得るなどして協力関係を構築している。グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修の際、身体拘束によって発生する危険性の理解浸透に努めている。1～3か月ごとに身体拘束委員会を開催し、身体拘束をしないケアの実現に向けて全職員で取り組んでいる。	継続的に、身体拘束に関する研修を行っており、職員は身体拘束の内容と弊害を正しく理解している。身体拘束のないケアに取り組んでいる。職員は利用者に寄りそって接している。利用者が安全で自由に暮らすことができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を開催し、高齢者虐待に関する知識を得るよう取り組んでいる。介護をするうえでつねに介護を受ける側の立場になって対応するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用している利用者がある。認知症であっても人権が守られるよう支援していく必要があることを知る機会として、職場内研修を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族の理解と納得が得られるまで、丁寧な説明を十分行うよう心がけている。納得できないことや疑問点があれば相談に応じており、その場や後日確認のうえで返答するよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等の機会に家族の意見を聞いている。把握した意見や意向等は、運営面に反映するよう取り組んでいる。また、苦情受付窓口として玄関に目安箱を設置している。	職員は、利用者や家族が気軽に意見や意思を表出しやすいような雰囲気づくりに努めている。玄関に目安箱を設置している。出された意見について検討し、夕食時間の変更や買い物の支援を増やすなどの改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	つねに職員とコミュニケーションを図って、働きやすい職場環境を構築するよう報告や連絡、相談のシステムを構築している。	管理者は、定期的な職員会議の開催や職員一人ひとりから意見や要望を聞く機会を設けている。職員から出された意見を代表者へ伝達し、現場の意見や提案を運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長期的にわたって働くことができるよう、働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人での研修を開催している。外部研修にもなるべく参加することができるよう様々な情報や学べる場の提供を行っている。また、研修後には、全職員の共有化と理解を促すため、伝達研修や資料の配布を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との交流を図っている。職員の意識向上やサービスの質の向上に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から情報を得ることとアセスメント期間を設けることにより、日ごろの生活状況を把握し、サービスに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接、家族から要望や困っていることなどを聞くよう努めている。把握した要望や困りごとなどは、サービスに反映するよう努めている。家族との信頼関係を構築するため、定期的に交流や情報交換を行う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を把握し、自立生活を支援することができるよう、様々な角度から調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念の“みんなで一緒にささえあう”のもと、利用者と職員が生活のなかでともに学んだり、共感しあったりすることのできる環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族と情報交換を行って、面会や行事へ参加してもらっている。利用者と家族との絆を保つことができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から社会や人間関係に関する情報を把握している。知人や友人の面会等により、関係が途切れることのないよう支援している。	家族の協力を得たうえで、墓参りへ行ったり、利用者一人ひとりの馴染みの場所へ出かけたりしている。利用者の友人や知人の来訪もある。利用者の希望にそうことができるよう、これまでの生活の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、連帯感をもって協力しあいつつ生活していく関係づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口をオープンにし、必要に応じて相談にのり、支援するよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から情報収集を行っている。些細な表情や動作等からも思いを汲みとることができるよう全職員で関心をもって支援している。	全職員が、“利用者といっしょに暮らす”という考え方でケアをしている。利用者につねに寄りそうことで、希望や思いを汲みとり、その人らしい暮らしの実現に向けた支援を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が、利用者の生活歴等を把握・理解し、継続した生活支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの暮らしのリズムや心身の状態に応じ、全職員で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員がモニタリングに加わってケアを評価する体制を構築している。家族や関係者、職員の意見等を参考にしううえで介護計画書を作成している。	全職員でモニタリングを繰り返し行い、課題を共有している。本人や家族、関係者の意見を介護計画書に反映している。定期や随時の見直しを行い、状況に応じた介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録として、職員が介護記録を作成し、個別のファイルで管理している。全職員が情報を共有して日ごろの支援に活かすことができるよう、いつでも閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態変化に応じ、家族や関係者と協力しあって柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の一員として安全で豊かな生活を送ることができるよう、各種会議等を介して地域の方と情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の運営する医療機関が主治医となっているため、24時間の対応が可能な体制を構築している。また、必要に応じて専門医の受診を支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診については、基本的には家族の付きそいにより支援しているが、状況に応じて職員が対応することもある。医療機関との協力体制を構築し、緊急時の対応に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の運営する医療機関の看護師と密に連携を図り、必要に応じて医療の受診ができる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者がやむを得ず入院に至った際には、生活の様子や心身状況等の情報を医療機関と共有している。また、定期的に面会を行って、入院先での状態の把握や医療機関との情報交換により早期退院に向けた支援を行っている。本人の少しでも安心することができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する指針を定め、事業所が対応し得るケアについて説明している。	重度化した場合に備えて事業所の対応方針を定めており、早期段階から本人や家族へ説明している。本人や家族の思いや意向を理解・把握し、医療関係者と話しあうことで、事業所ができる支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、事務所に掲示している。全職員がマニュアルを理解し、実践することができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、避難訓練を実施している。	災害時のマニュアルを作成し研修を行っている。また、災害時の備蓄品リストを作成し管理している。近隣の事業所の協力も得て、夜間を想定した訓練を行っているが、地域住民の協力を得るための取り組みを十分に行うまでには至っていない。	災害は、いつ・どのような規模で発生するか分からないため、なるべく近隣住民の協力を得られるような体制づくりが望まれる。運営推進会議や訓練の機会を通じるなどして、地域の協力体制の確保に取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守り、プライドを傷つけないよう愛情をもって支援している。	職員は、利用者の誇りやプライバシーに関する研修や話し合いを重ねている。言葉かけや接し方など、一人ひとりの人格を尊重し、さりげない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自らが意思決定することが困難な場合には、日ごろの生活歴や表情等を注意深く読みとって意向を把握し、その人の思いを代弁することができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての基本的な一日の流れはあるが、利用者の状態変化等に応じた臨機応変な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	顔や髭剃りなどの身だしなみの支援のほか、季節や好みに応じた衣類の調整等の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけを工夫するなどして、見た目でも楽しめるよう配慮している。利用者の状態に応じた食事形態に配慮している。利用者と職員は、食事の準備や後片づけなどをともに行っている。	利用者一人ひとりの状態に応じた調理方法や食事形態で提供している。利用者のペースで食事を楽しむことができるよう配慮している。外食や屋外での昼食等、行事のような要素を取り入れるなどし食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立に基づいて食事を提供している。高血圧の方には、医療職者と連携を図ったうえで、塩分制限食や水分制限等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行って清潔の保持に努めている。夜間には、義歯を管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、重点的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者の状態に応じてパット交換やトイレ誘導等の支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない声かけや誘導に努め、トイレでの排泄を支援している。夜間も利用者の状況に応じてトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の確認を行い、便秘傾向の利用者には、医療職者と連携して漢方薬や緩下剤等の服薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、安心して安全に入浴することができるよう支援している。必ず利用者に声かけを行っている。入浴を拒む方には、時間をずらしたり、日を改めてたりして意向にそった支援している。	利用者の希望に応じた入浴を支援している。入浴を拒む方には、声かけのタイミングを変えるなどして、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促すことで生活リズムの安定化に繋げている。なるべく夜間に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルを作成し、全職員が閲覧できるようにしている。事前に看護師より服薬の説明を受けて副作用等を理解し、状態の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や趣味、興味等を把握し、生活リハビリテーションとして取り入れたり、レクリエーションとして行ったりして役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には日向ぼっこや散歩、外出支援を取り入れている。利用者の楽しみに繋がる計画を立てて実践している。	天気の良い日には、積極的に散歩や日向ぼっこなどの外出を支援している。買い物や理・美容院の利用など、個別の外出も支援している。また、季節を感じられるところへ出かけたり、地域の行事へ参加したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物品等を購入したときには、必ず事前に家族へ報告している。家族の了解を得たうえで、職員とともに買い物をしたり、職員が代行で買ってきたりしている。また、家族の面会時に持参してもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族便りを発行している。その際、字が書ける人には一筆書いてもらっている。電話は、本人が希望したときに随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔で開放的な空間となるよう、季節の花や写真を飾っている。菜園では、野菜を育てたり、ゴーヤで緑のカーテンを作ったりしている。	共用空間は、居心地の良さや季節感に配慮している。職員は、つねに利用者を見守っており、利用者は安心してゆったりとくつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、テレビを見たり、ソファでくつろいだりして、思い思いに過ごしてもらっている。廊下の奥に一人用のソファを設置するなどして休憩できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味等の持ち物がある人には持ち込んでもらっている。居心地の良い空間づくりを支援している。	利用者は、居室に使い慣れた家具や道具を持ち込んでおり、その人らしく過ごすことのできる空間となっている。思い出の写真や手づくりの作品を飾っており、居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての居室がバリアフリーとなっている。手すりを設置している。廊下は、まっすぐなため死角が少なく安心して移動することができる。		